

エンジニアパーク

# Engineer Ring Park

私は、平成13年から札幌市内の上下水道コンサルタントでお世話になり、その後平成24年からは札幌市役所の職員として、水道事業（計画、危機管理、管路工事）、雪対策事業、そして現在は土地区画整理事業に携わっています。

これまでの業務で印象深いものは、土木センターでの雪対策事業です。札幌市では特に除雪作業が入った翌日は、多くの市民から苦情や要望が

寄せられ、その内容は高齢化の進行や生活スタイルの変化などの影響により、多様化・高度化していることを実感しました。その対応にはとても苦慮しましたが、雪対策への市民の理解と協力は不可欠であることから、効果的な広報活動に加え、市民との対話の機会の設定など継続した取り組みが必要であると考えています。また、札幌市では小学生に雪対策や冬の暮らし・マナーについて理解を深めてもらうため、出前授業を行っています。授業では毎回子供たちから多くの質問が寄せられ、中には「未来の除雪はどうなっているの?」といった興味深い質問もあり、子供たちと楽しみながら授業を行いました。

最後に、未だコロナの収束を見通すことができない中、皆様の職場においてもテレワークや時差出勤の導入、さらに職場における飲み会の自粛など働き方が変化しているかと思います。このような中、私の職場においても、これまでのような何気ない雑談や情報交換の機会が減っているため、コミュニケーション不足を懸念しており、これを改善する必要があると感じています。また、これまでの通勤時間や飲み会の時間を家族との時間や、読書、勉強、運動などの自己投資にも活用できるため、「With コロナ」、「After コロナ」を見据えたワークライフバランスを充実させていきたいと考えています。

## 長谷川 廣和(はせがわ ひろかず)

●上下水道部門

**勤務先**  
札幌市 都市局 市街地整備部



→次号は、佐野貴行さん(上下水道部門)

私は、北海道の遠別町で生まれ、その後父の転勤により、士別、八雲、札幌と幼少期をいろいろな土地で過ごしました。八雲に住んでいた時は、すぐ近くにユース川が流れており、川にゴミ袋もって魚を取ろうとした記憶があります。このころから川に親しみを感じていたように思います。

その後、父の影響もあり、北見工業大学に進学し、土木の道を進むことになりました。27歳の時に今の会社に入社し河川設計の仕事をしています。

管理技術者になるためには資格が必要です。また、大学がJABEEの認定を受けていたことからレベルアップのためにも技術士を取りたいと思うようになりました。試験は28歳から受け始めましたが、私には難しく、一度技術士試験を諦めました。

その後、技術士試験についてはあまり考えないようにしておりましたが、令和元年、また技術士の試験制度が変わり、設計としても多くの経験を積んだことから、再チャレンジを決意しました。合格までは10年かかってしまいましたが、諦めなくてよかったと思っています。

近年、我が国は気候変動の影響を受け、大雨による災害が多発しています。ニュースなどでも堤防が決壊した映像をよく見かけるようになりました。河川の技術者としては、このような報道はもどかしく、どうすれば被害がなくなるのか？軽減できるのかをよく考えます。今後はせっかく技術士を取り、河川に携わるのであれば、少しでも安全な生活を提供できるよう研鑽を図り、精一杯業務に取り組んでいきたいと思っています。

## 佃 知樹(つくだ ともし)

●建設部門  
(河川、砂防及び海岸・海洋)

**勤務先**  
株式会社日興ジオテック



→次号は、伊藤直也さん(建設部門)